

小学校教師における「体力を高める運動」に関する意識調査

岡野 昇*・伊藤 暢浩**・山本 俊彦*・加納 岳拓**

本研究では、三重県内の小学校教師 289 名を対象に「体力を高める運動」に関する意識調査を実施した。主な調査結果は、約 8 割の教師が「子どもの体力は低下している」と感じ、「子どもの体力低下は重大な問題である」と認識していることが明らかになった。また、「体力を高める運動」が取り組みにくいと感じている教師は 1 割余りで、実践例や教材が少ないと感じている教師も 2 割余りであることから、指摘されているほど「体力を高める運動」が敬遠されていないことが明らかとなった。しかしながら、「体力を高める運動」の実施状況は、体育授業（単元学習や準備・整理運動）として取り組まれているものが約 4 割で、体育授業以外（業間体育・活動）として取り組まれているものが約 3 割に留まるという結果となった。

キーワード：「体力を高める運動」、体づくり運動、小学校教師、意識調査

1. はじめに

平成 20 年の小学校学習指導要領改訂に伴い、すべての学年において「体づくり運動」の領域が位置づけられた。これは体力の低下傾向と積極的に運動する子とそうでない子どもの二極化を背景とするものである¹⁾。「体づくり運動」は従前の体操領域であり、小学校の高学年で取り扱われていた内容である。その領域が平成 10 年の改訂により「体づくり運動」に変更され、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の内容が位置づけられた²⁾。

平成 10 年の学習指導要領の改訂では、新しい内容である「体ほぐしの運動」に注目が集まり、三重県内の小学校でも「体ほぐしの運動」の実技研修が盛んに行われ、体育授業においても導入されるようになってきている。

しかしその一方で、「体力を高める運動」に関しては、「体操領域の時代から取り扱いにくい内容である」という指摘がみられ³⁾、三重県内の小学校体育科研究協議会や体育科の研究校においても、実践例は少数である⁴⁾ことから、「体力を高める運動」は積極的に取り組まれているとは言い難い状況にある。

そこで、本研究では三重県内の小学校教師を対象に「体力を高める運動」に関する意識調査を行うことで、これからの小学校体育における「体力を高める運動」についての基礎資料を得ることが目的である。

2. 調査方法

2. 1 調査方法

調査方法は、平成 21 年 8 月 6 日、8 月 11 日、8 月 24 日に、

質問紙調査（多肢選択法と自由記述法）方式で、平成 21 年度小学校体育担当者研究協議会（三重県教育委員会主催）に参加した教師を対象に調査した。質問紙は 312 名に配布し 289 名から回答を得た（回答率 92.6%）。

2. 2 集計方法および調査項目

本調査は、多肢選択法による項目の回答割合から教師の意識傾向を把握する調査Ⅰと自由記述による記述内容から教師の意識傾向を把握する調査Ⅱの二つの調査を実施した。多肢選択法について得られた回答は、少数第二位で四捨五入し平均値を算出した。そして、全体と地域別（中勢・北勢・南勢ブロック）の平均値を算出するとともに、各教師の「勤務地・年齢・性別・教職年数・これまで多く受け持った学年・自主研究」の別に統計解析ソフト SPSS15.0J を用いてクロス集計を行った。また、自由記述について得られた回答は、キーワードとキーセンテンスに区切り、それらを KJ 法により整理した。

調査Ⅰは、多肢選択法による 7 つの設問であり、内容は「子どもの体力低下について（2 項目）」、「実施形態について（3 項目）」、「取り組みにくさについて（1 項目）」、「実践例や教材について（1 項目）」である。調査Ⅱは、自由記述による 2 つの設問であり、内容は「運動の実践について（1 項目）」、「日頃感じていること（1 項目）」である。

3. 調査の結果

3. 1 調査Ⅰ / 全体の結果

3. 1. 1 子どもの体力低下について①

「1. 子どもの体力は低下している」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが 81.4%、どちらでもないが 16.8%、あてはまらないが 1.8%であり、約 8 割が子ど

* 三重大学教育学部保健体育

** 三重大学大学院教育学研究科

ものの体力は低下していると回答している（図1）。

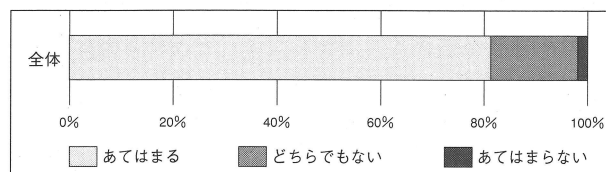


図1 子どもの体力は低下している（全体）

3. 1. 2 子どもの体力低下について②

「2. 子どもの体力低下は重大な問題である」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが77.6%，どちらでもないが19.6%，あてはまらないが2.8%であり，約8割弱が子どもの体力低下は重大な問題と回答している（図2）。

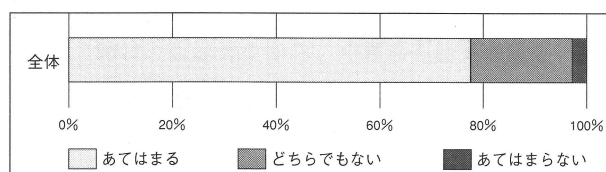


図2 子どもの体力低下は重大な問題である（全体）

3. 1. 3 実施形態について①

「3. 体育の授業で単元として『体力を高める運動』を行っている」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが40.8%，どちらでもないが41.5%，あてはまらないが17.6%であり，約4割が「体力を高める運動」を単元として行っていると回答している（図3）。

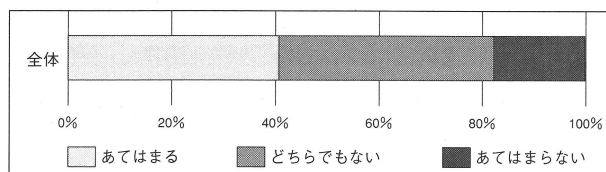


図3 単元として「体力を高める運動」を行っている（全体）

3. 1. 4 実施形態について②

「4. 体育の授業で準備・整理運動として『体力を高める運動』を行っている」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが41.8%，どちらでもないが37.9%，あてはまらないが20.4%であり，約4割が準備・整理運動として「体力を高める運動」を行っている（図4）。

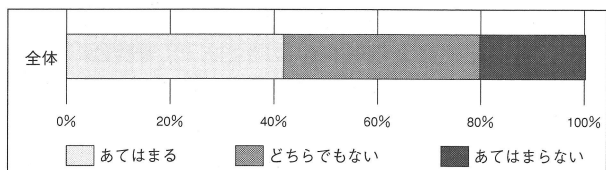


図4 準備・整理運動として「体力を高める運動」を行っている（全体）

3. 1. 5 実施形態について③

「5. 業間体育・活動として『体力を高める運動』を行っている」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが28.4%，どちらでもないが33.0%，あてはまらないが38.6%であり，約3割弱が業間体育・活動として「体力を高める運動」行っていると回答している（図5）。

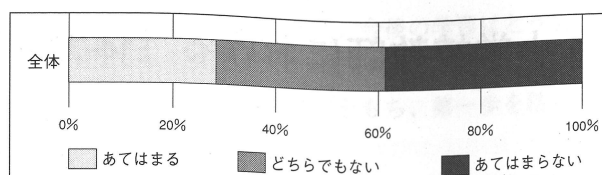


図5 業間体育・活動として「体力を高める運動」を行っている（全体）

3. 1. 6 取り組みにくさについて

「6. 『体力を高める運動』は取り組みにくい」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが12.9%，どちらでもないが65.4%，あてはまらないが21.7%であり，約1割が「体力を高める運動」は取り組みにくいと回答している（図6）。

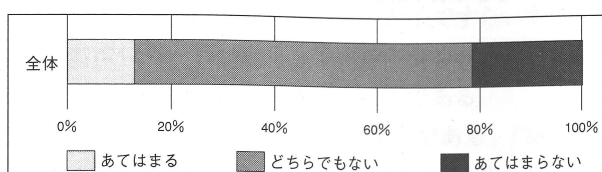


図6 「体力を高める運動」は取り組みにくい（全体）

3. 1. 7 実践例や教材について

「7. 『体力を高める運動』の実践例・教材は少ない」という項目の全体の回答結果は、あてはまるが24.6%，どちらでもないが60.7%，あてはまらないが14.7%であり，約2割が「体力を高める運動」の実践例や教材は少ないと回答している（図7）。

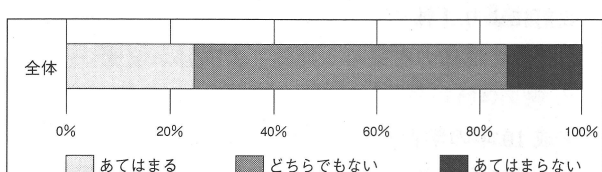


図7 「体力を高める運動」の実践例や教材は少ない（全体）

3. 2 調査Ⅰ / 地域別の結果

3. 2. 1 子どもの体力低下について①

「1. 子どもの体力は低下している」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが86.0%，どちらでもないが14.0%，あてはまらないが0%であり，北勢ブロックにおいては、あてはまるが85.7%，どちらでもないが13.3%，あてはまらないが1.0%であり，南勢ブロックにおいては、あてはまるが72.3%，どちらでもないが23.4%，あてはまらないが4.3%であった（図8）。南勢ブロッ

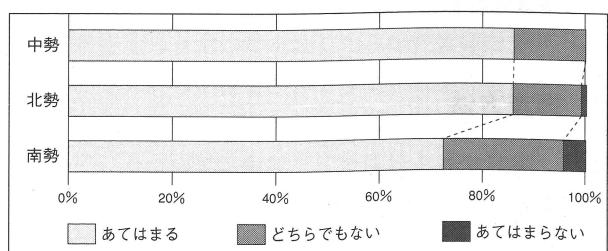


図8 子どもの体力は低下している（地域別）

クにおいて、子どもの体力が低下していると回答する割合が他のブロックに比べて少ない結果となっている。

3. 2. 2 子どもの体力低下について②

「2. 子どもの体力低下は重大な問題である」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが81.6%，どちらでもないが13.8%，あてはまらないが4.6%であり、北勢ブロックにおいては、あてはまるが79.0%，どちらでもないが20.0%，あてはまらないが1.0%であり、南勢ブロックにおいては、あてはまるが72.3%，どちらでもないが24.5%，あてはまらないが3.2%であった（図9）。南勢ブロックにおいて、子どもの体力低下は重大な問題と回答する割合が他のブロックに比べて少ない結果となっている。

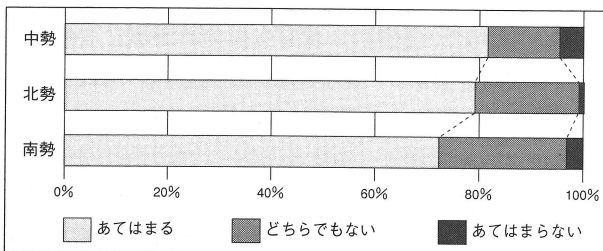


図9 子どもの体力低下は重大な問題である(地域別)

3. 2. 3 実施形態について①

「3. 体育の授業で単元として『体力を高める運動』を行っている」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが40.7%，どちらでもないが43.0%，あてはまらないが16.3%であり、北勢ブロックにおいては、あてはまるが38.5%，どちらでもないが42.3%，あてはまらないが19.2%であり、南勢ブロックにおいては、あてはまるが43.6%，どちらでもないが39.4%，あてはまらないが17.0%であった（図10）。北勢ブロックにおいて、単元として「体力を高める運動」を行っている割合が他のブロックに比べて少ない結果となっている。

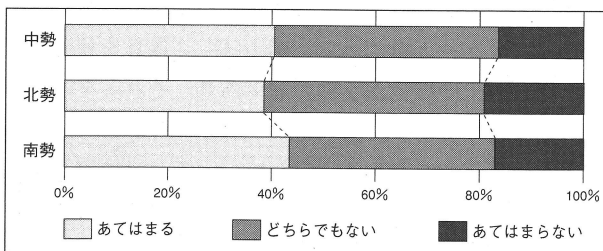


図10 単元として「体力を高める運動」を行っている(地域別)

3. 2. 4 実施形態について②

「4. 体育の授業で準備・整理運動として『体力を高める運動』を行っている」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが43.7%，どちらでもないが39.1%，あてはまらないが17.2%であり、北勢ブロッ

クにおいては、あてはまるが35.2%，どちらでもないが37.1%，あてはまらないが27.6%であり、南勢ブロックにおいては、あてはまるが47.3%，どちらでもないが37.6%，あてはまらないが15.1%であった（図11）。北勢ブロックにおいて、準備・整理運動として「体力を高める運動」を行っている割合が他のブロックに比べて少ない結果となっている。

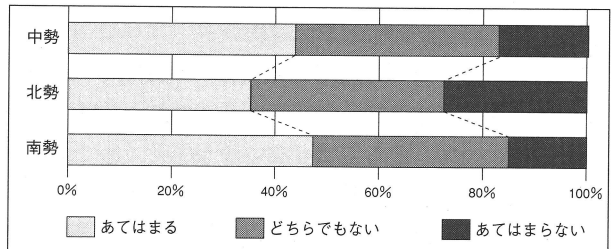


図11 準備・整理運動として「体力を高める運動」を行っている(地域別)

3. 2. 5 実施形態について③

「5. 業間体育・活動として『体力を高める運動』を行っている」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが19.8%，どちらでもないが31.4%，あてはまらないが48.8%であり、北勢ブロックにおいては、あてはまるが36.2%，どちらでもないが34.3%，あてはまらないが29.5%であり、南勢ブロックにおいては、あてはまるが27.7%，どちらでもないが33.0%，あてはまらないが39.4%であった（図12）。北勢ブロックにおいて、業間体育・活動として「体力を高める運動」を行っている割合が他のブロックに比べて多い結果となっている。

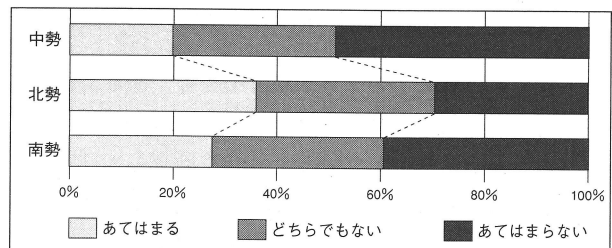


図12 業間体育・活動として「体力を高める運動」を行っている(地域別)

3. 2. 6 取り組みにくさについて

「6. 『体力を高める運動』は取り組みにくい」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが17.2%，どちらでもないが63.2%，あてはまらないが19.5%であり、北勢ブロックにおいては、あてはまるが9.5%，どちらでもないが68.6%，あてはまらないが21.9%であり、南勢ブロックにおいては、あてはまるが12.8%，どちらでもないが63.8%，あてはまらないが23.4%であった（図13）。中勢ブロックにおいて、「体力を高める運動」は取り組みにくいと回答する割合が他のブロックに比べて多い結果となっている。

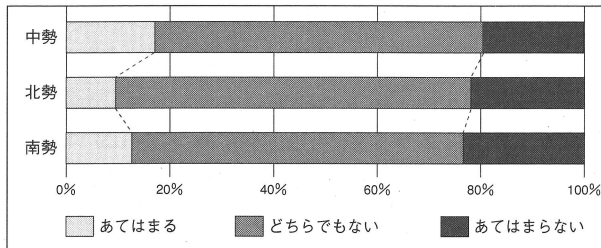


図13 「体力を高める運動」は取り組みにくい(地域別)

3. 2. 7 実践例や教材について

「7.『体力を高める運動』の実践例・教材は少ない」の地域別の回答結果は、中勢ブロックにおいては、あてはまるが32.2%，どちらでもないが58.6%，あてはまらないが9.2%であり、北勢ブロックにおいては、あてはまるが25.0%，どちらでもないが57.7%，あてはまらないが17.3%であり、南勢ブロックにおいては、あてはまるが17.0%，どちらでもないが66.0%，あてはまらないが17.0%であった（図14）。中勢ブロックにおいて、「体力を高める運動」の実践例・教材は少ないと回答する割合が他のブロックに比べて多い結果となっている。

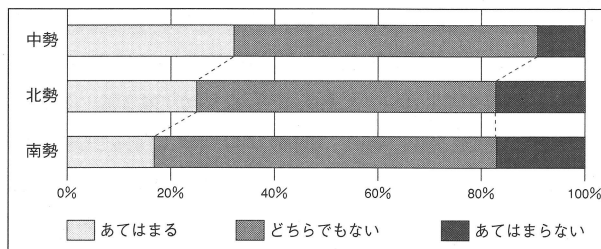


図14 「体力を高める運動」の実践例や教材は少ない(地域別)

3. 3 調査Ⅰ / クロス集計の結果

統計解析ソフト SPSS15.0J を使用し、各教師の「勤務地・年齢・性別・教職年数・これまで多く受け持った学年・自主研究」と調査Ⅰのクロス集計を行い、統計的優位水準を5%として解2乗検定を行った結果、「年齢」と「1.子どもの体力は低下している」、「自主研究」と「7.『体力を高める運動』の実践例・教材は少ない」に優位な差がみられた。以下に回答結果を取り上げる。

「1.子どもの体力は低下している」の年齢別の回答結果は、20代においては、あてはまるが65.7%，どちらでもないが32.9%，あてはまらないが1.4%であり、30代においては、あてはまるが84.8%，どちらでもないが13.9%，あてはまらないが1.3%であり、40代においては、あてはまるが92.6%，どちらでもないが5.3%，あてはまらないが2.1%であり、50代においては、あてはまるが76.3%，どちらでもないが21.1%，あてはまらないが2.6%であった（図15）。子どもの体力が低下していると回答する割合が40代では最も多く、20代では最も低くなっている。

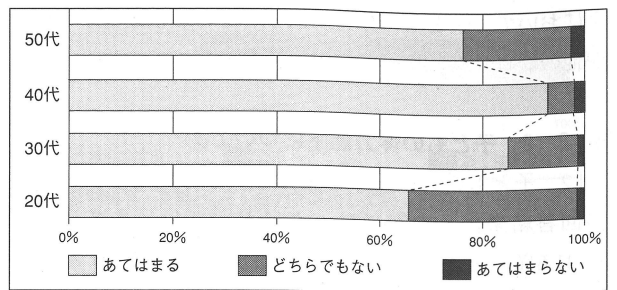


図15 「子どもの体力は低下している」の年齢別回答

「7.『体力を高める運動』の実践例・教材は少ない」の自主研究別の回答結果は、体育を中心に取り組んでいる教師において、あてはまるが21.8%，どちらでもないが50.9%，あてはまらないが27.3%であり、体育以外の教科等に取り組んでいる教師においては、あてはまるが26.5%，どちらでもないが62.8%，あてはまらないが10.8%であった（図16）。体育以外の教科等に取り組んでいる教師の方が、「体力を高める運動」の実践例・教材が少ないと回答する割合が多くなっている。

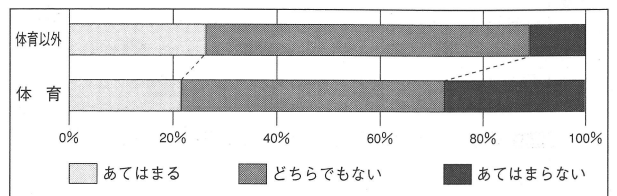


図16 「『体力を高める運動』の実践例・教材は少ない」の自主研究回答

3. 4 調査Ⅱ / 自由記述の結果

「これまで取り組まれてきた『体力を高める運動』の具体的な内容についてお書きください」という設問に対し、回答数は289名中212名（回答率73.4%）であった。これまで取り組んだ実践については、「体育の授業での実践例」が164件、「業間体育・活動、行事での実践例」が56件、「体育の授業として行うときに大切にしたいこと」が16件であった。

「体育の授業での実践例」における主な内容は、「ストレッチ・準備・整理運動」が24件と最も多く、次いで「持久走」が23件、「トレーニング」が20件、「なわとび」が18件、「ゲーム鬼ごっこ」が16件、「道具を使った運動」が7件、その他が2件の順であり、それらを「組み合わせで行う」が54件あった。（図17参照）

また、「『体力を高める運動』について、日頃感じていることがあればお書きください」の設問に対し、回答数は289名中152名（回答率52.6%）であった。「体力低下について問題だと感じている」が57件と最も多く、次いで、「体力を高める運動の取り組みにくさ」が38件、「体力を高める運動の実践例や教材の少なさ」が28件であった。

「体力低下について問題だと感じている」における主な内容は、「生活を変えていかなければならない」、「二

極化している」がそれぞれ12件と最も多く、「遊び不足」が10件、「カリキュラムに問題がある」が6件の順であった。「体力を高める運動の取り組みにくさ」における主な内容は、「時間が確保できない」が14件と最も多く、次いで、「どうすればよいかわからない」が12件であった。「体力を高める運動の実践例や教材の少なさ」における主な内容は、「研修の必要性」が16件と最も多く、次いで、「実践例、教材の必要性」が12件であった。(図17参照)

4. 調査結果の概要

調査Ⅰ／全体からの結果では、約8割の教師が「子どもの体力は低下している」と感じ、「子どもの体力低下は重大な問題である」と認識していることが明らかになった。また、「体力を高める運動」が取り組みにくいと感じている教師は1割余りで、実践例や教材が少ないと感じている教師も2割余りであることから、指摘されているほど「体力を高める運動」が敬遠されていないことが明らかとなった。しかしながら、「体力を高める運動」の実施状況は、体育授業（単元学習や準備・整理運動）として取り組まれているものが約4割で、体育授業以外（業間体育・活動）として取り組まれているものが約3割に留まり、約2割が体育授業としても、また約4割が体育授業以外としても取り組んでいない結果となった。

調査Ⅰ／地域別からの結果では、中勢ブロックは他の

ブロックに比べ、「体力を高める運動」について、取り組みにくさを感じており、実践例・教材も少ないと感じている傾向が見られた。また、北勢ブロックでは他のブロックに比べ、「体力を高める運動」について、体育授業以外（業間体育・活動）として取り組まれている割合が高く、体育授業（単元学習や準備・整理運動）として取り組まれている割合が低い傾向が見られた。さらに、南勢ブロックは他のブロックと比べ、「体力を高める運動」について、体育授業（単元学習や準備・整理運動）として取り組まれている割合が高いためか、取り組みにくさを感じておらず、実践例・教材も少ないと感じていないという傾向が見られた。

調査Ⅰ／クロス集計からの結果では、50代を除き年代が高くなるにつれて、子どもの体力は低下していると回答する割合が高くなり、特に40代においては9割を超える回答結果となった。また、体育について自主研究に取り組んでいる教師の方が、そうでない教師と比べて、「体力を高める運動」の実践例・教材は少ないと回答する割合が低い結果となった。

調査Ⅱ／自由記述からの結果では、これまで取り組まれてきた「体力を高める運動」の具体的な内容は、「ストレッチ・準備・整理運動、持久走、トレーニング、なわとび、ゲーム・鬼ごっこ」などを「組み合わせて行う」ものが多い傾向にあった。続いて、「体力を高める運動」について日頃感じていることは、「体力低下について問題だと感じている」が最も多く、「生活を変えていかな

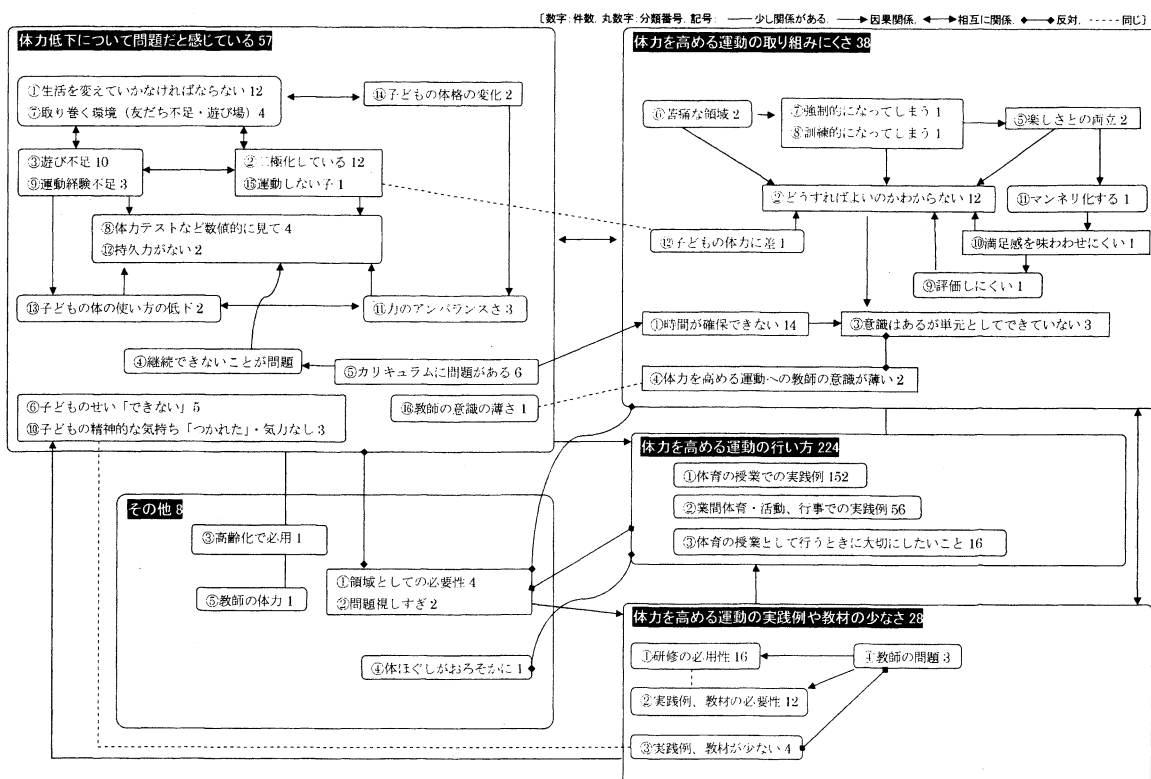


図17 調査Ⅱ／自由記述の分類

なければならない」、「二極化している」、「遊び不足」、「カリキュラムに問題がある」など、子ども自身の問題というより、子どもを取り巻く生活環境の変化を問題としてとらえる傾向が見られた。また、「体力を高める運動の取り組みにくさ」の原因として、「時間が確保できない」や「どうすればよいかわからない」があげられたり、「体力を高める運動の実践例や教材の少なさ」について、「研修の必要性」や「実践例、教材の必要性」を感じていることから、比較的短時間で取り組むことができる教材開発が求められていることが明らかになった。(図17参照)

5. おわりに

本研究では、三重県内の小学校教師289名を対象に「体力を高める運動」に関する意識調査を実施することにより、小学校体育における「体力を高める運動」についての基礎資料を得ることができた。主な調査結果は、約8割の教師が「子どもの体力は低下している」と感じ、「子どもの体力低下は重大な問題である」と認識していることが明らかになった。また、「体力を高める運動」が取り組みにくいと感じている教師は1割余りで、実践例や教材が少ないと感じている教師も2割余りであることから、指摘されているほど「体力を高める運動」が敬遠されていないことが明らかとなった。しかしながら、「体力を高める運動」の実施状況は、体育授業（単元学習や準備・整理運動）として取り組まれているものが約4割で、体育授業以外（業間体育・活動）として取り組まれているものが約3割に留まるという結果となった。

今後の課題は、調査で得られた結果を基礎資料としながら、これからの小学校体育における「体力を高める運動」の教材開発や単元開発につなげていくことである。

付 記

本調査は、三重県教育委員会スポーツ振興室の協力を得ながら進められた。また、本稿の統計処理においては、三重大学大学院教育学研究科の中西礼氏にご協力をいただいた。記して、感謝を申し上げたい。

注

注1) 例えば、「体力を高める運動」について、板垣は「敬遠されて、他のスポーツの時間を多くしたり準備運動を体操にあてて行っている」³⁾、米川は「取り組みは全体として消極的になってきている」⁴⁾と述べている。また、高橋・三木は「実践が極めて貧困である」⁵⁾、滝沢は「敬遠され、あまり実践されていないという傾向がある」⁶⁾と指摘がある。

注2) 例えば、三重県三泗小学校体育科教育研究協議会では、2002年度から2005年度まで「体づくり運

動部」が設置され研究が進められており、その間「体づくり運動部」として3例の授業研究が行われているが、2例は「体ほぐしの運動」である。また、4例の実技研修が実施されているが、そのすべてが「体ほぐしの運動」であり、「体力を高める運動」については行われていない⁷⁾。また、体育科の研究校である四日市市立笹川西小学校の2000年度から2006年度までの研究紀要によれば、60例の授業研究が行われているが、「体力を高める運動」の実践例は6例である⁸⁾。さらに、同じく研究校である四日市市立河原田小学校の2004年度から2006年度までの研究紀要によれば、16例の授業研究が行われているが、「体力を高める運動」の実践例は1例である⁹⁾。

〈参考・引用文献〉

- 1) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説体育編（東洋館出版社），pp.13-14. 2008.
- 2) 文部省小学校学習指導要領解説体育編（東山書房），p.21. 1999.
- 3) 板垣了平. はじめに. 体操論（アイオーエム）. 1990.
- 4) 米川浩司. 第1章 研究の目的と方法 第1節 研究の動機と目的. 体操の学習指導に関する一考察—小学校における実践を中心として—（上越教育大学大学院 修士論文），p.2. 1995.
- 5) 高橋健夫・三木四郎. 「体操の授業」（大修館書店）. 体育科教育別冊⑭43(13)，p.9. 1995.
- 6) 滝沢かほる. 体操の学習指導（不昧堂出版），p.3. 1997.
- 7) 三泗小学校体育科教育研究協議会. 「研究集録」. 2002-2005.
- 8) 四日市市立笹川西小学校. 「研究紀要」. 2000-2006.
- 9) 四日市市立河原田小学校. 「研究紀要」. 2004-2006.